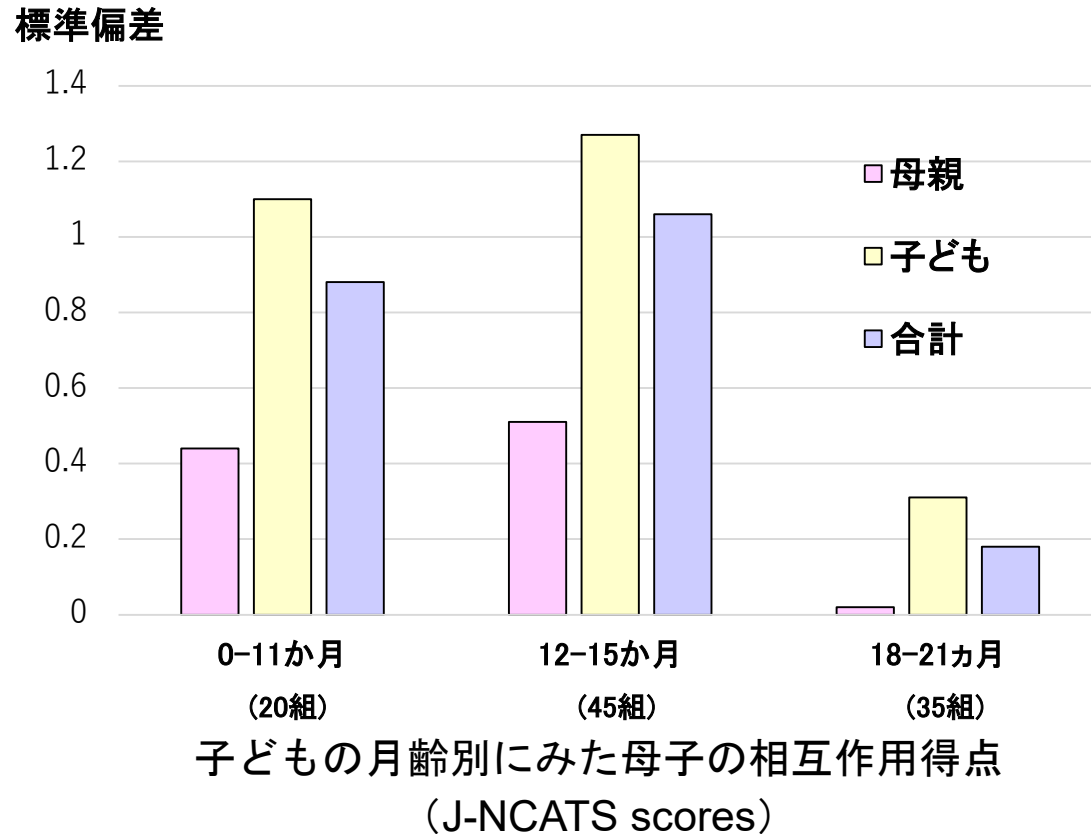


働く母親と子どもの相互作用は良好である



数値は、日本の母子の平均値との差を示しており、正の値は平均値よりも良い状態であることを示す

〈研究の目的〉

乳幼児と親のやりとり(相互作用)の質は、子どものその後の様々な発達に影響することがわかっている。働く母親は、子どもと関わる時間が短く、不安を感じているかもしれない。そこで、働く母親と乳幼児の相互作用の現状を明らかにすることとした。

〈結果〉

働く母親とその子どもの遊び場面の動画をもとに相互作用(J-NCATS)得点を算出した。相互作用得点の平均値を日本の母子の標準的な値と比べたところ、左図のように、0～11か月児・12-15か月児・18-21か月児のいずれにおいても、標準的な値の範囲内もしくはそれ以上であることが明らかになった。

〈考察〉

⇒母親の就労や乳児保育は母子相互作用の質に悪影響を与えていないことが示唆された。

⇒働く母親の子どもは、保育園など集団保育の場でも保育者と活発な相互作用を行っている可能性がある。

働く母親のワークライフバランスに関係するのは勤務時間や仕事の内容ではなく、育児・仕事・職場の満足度である

関係がみられた要因

育児に対する満足度

仕事に関する満足度

育児と仕事を両立させて働くことに対する職場の人々の理解度

急に必要になったときの休みの取りやすさ

「あなたの理想とするワークライフバランスの状態を100点とした場合の今の点数は？」

平均62.3点



関係がみられなかった要因

勤務時間や勤務形態

仕事の内容

保育時間

乳幼児を保育園に預けて働く母親209人の調査より

【出典】

三国久美, 斎藤早香枝: 保育所入所児と働く母親の母子相互作用, 日本乳幼児医学・心理学研究, 21 (2), 77-25, 2012.

基盤研究 (B) 「働く母親のワークライフバランスと母子相互作用の縦断的研究」2013 年度 研究成果報告書: 科学研究費助成事業データベース,

<https://kaken.nii.ac.jp/ja/report/KAKENHI-PROJECT-21390603/21390603seika/>